

各 位

平成 29 年 10 月 1 日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



秋色を呈してきた「友好姉妹都市の庭」 (写真は「25」を浮き上がらせた、紅白のセンニチコウ)

今年度、山形市の野草園は開園して25年目を迎えました。7月に園内に熊が侵入した形跡が見つかって2週間ほど臨時休園しましたが、フェンス際の除草や有刺鉄線の設置、開園中のBGM、朝夕の爆竹使用などの侵入防止策を施し、園内巡視・安全点検を強化した結果、その後の異状は認められていません。野草園の花達を楽しみに来園くださる皆様には、今後とも安心して過ごせるよう努力している所です。

さて、園内はすっかり秋の色が深まり、新たに咲き出す花は少なくなります。紅葉や面白い果実が見頃になります。外に出るには絶好のこの時期、ぜひ野草園にお出かけ頂いて、ゆったりとした時間を過ごして頂ければ幸いです。どうぞ、ご家族・ご近所お声がけて皆さんでおいで下さい。お待ちしております。

10月初旬～10月中旬の予定

◆「秋の山野草展」

○日 時 10/6(金)～8日(日) 9:00～16:30 ○場 所 自然学習センター
○内 容 業者による山野草鉢植え 約100鉢の展示

◆第24回「野草園の魅力を探る写真コンテスト」入賞作品展

○日 時 10/14(土)～11/23(木) 9:00～16:30
○場 所 自然学習センター

◆【焼き芋の振舞い】

○日 時 10/14(土) 15(日) 11:00～なくなり次第終了
○場 所 「クリンソウの谷」東側(中央広場西側)
○内 容 各日先着100名に小石を使った本格的な焼き芋を振舞います。熱々の味をお楽しみ下さい。

◆『家屋新築記念樹交付』

○日 時 10/14(土) 15(日) 10:00~15:00

○場 所 料金所裏

○内 容 家屋を新築され、申請した方に、記念樹を交付します。…ヤマボウシ、ナナカマド等

◆「ハーブリース教室」

○日 時 10/22(日) 10:00~12:00 ○場 所 自然学習センター

○内 容 ユーカリなどを使ったリース作り、ハーブティーの試飲。

○対 象 一般先着 20名 ○参加費 2,000円(入園料別)

○申込みは電話で野草園まで Tel 023-634-4120

◆コンサート「美寿(びじゅ)&綾(りょう)」

○日 時 10/22(日) ・第1部 11:00~ ・第2部 14:00~

○場 所 園内中央広場

○内 容 ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノによるコンサート。 ○参加は無料(入園料別)

◆「四季観察会③ 紅葉と木の実」

※講師：植物案内ボランティア 志鎌 節郎 氏

○日 時 10/25(水) 10:00~15:00

○内 容 野草園内の植物観察 ○持ち物 昼食、雨具

○対 象 一般先着 20名 ○参加費 100円(入園料別)

◆「きのこ汁の振舞い」

○日 時 10/28(土) 29(日) 11:00~12:00

○場 所 自然学習センター内

○内 容 各日先着50名にきのこ汁を振舞います。

◆「ガイドウォーキング」

○日 時 10/1(日) 8(日)9(月) 14(土)15(日) 22(日) 29(日)

①回目 10:00~11:00 ②回目 11:00~12:00 ③回目 13:00~14:00 ④回目 14:00~15:00

○内 容 ボランティアガイドと一緒に野草園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。

※10/21(土)に予定していた「星空を見る会」は、都合により中止とさせていただきます。

★★★ 今、見頃の花 ★★★



エゾリンドウ(リンドウ科) 福井県以北の山地帯から亜高山帯の草地などに生える多年草。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の脇につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



エゾオヤマリンドウ(リンドウ科) エゾリンドウの高山型で、花は茎頂付近にしか付かないのが特徴です。登山道脇、高山の日当たりの良い草原などで見られます。天気が良く、陽光が一杯に当たっていないと開花しないという性質があり、開花しても花卉全体が開くことはありません。草丈は40～50 cmです。



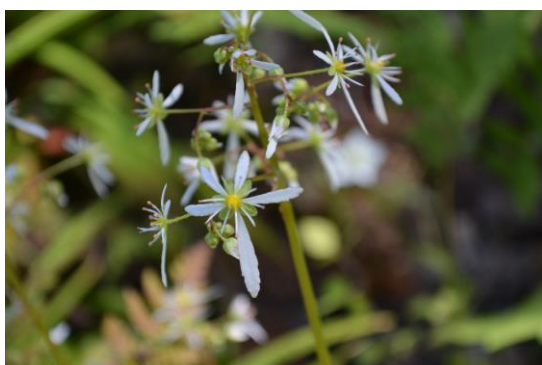
シュウメイギク(キンポウゲ科) 庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれているそうです。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の“ジャパニーズアネモネ”が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



ウメバチソウ(ユキノシタ科) 山地などの湿り気のある日当たりのよい所に生える多年草です。根生葉は長い柄があります。中頃の葉は円形または腎形で基部は心形となります。数本の花茎を直立し一枚の葉と一個の花をつけます。花茎につく葉は柄がなく茎を抱きます。花は白色で梅の花に似ています。名は花が梅鉢の紋に似ているからです。



シオン(キク科) 山地のやや湿った所に生える多年草で、本州から九州にかけて分布し、野生のものは稀です。葉は細長い楕円形で対生し、根際から生える葉には長い柄があります。上の葉にはほとんど葉柄がありません。頭花は花径が25～35 mmほどで、筒状花は黄色く、舌状花は淡い紫色です。茎の割に花が大きく、凜とした姿です。



ミヤマダイヤモンドソウ(ユキノシタ科) 湿気に富む岩地に生える多年生草本です。葉は長い柄があり腎円形で基部は普通心形となります。裏面は通常白味を帯びますがときに暗紅色のものもあります。掌状に浅く7裂し裂片には粗いきょ歯があります。白色の花を開き花卉は5枚、上の3枚は小さく下の2枚は長く、全体として大の字に似ています。本園では、ロックガーデンに咲いています。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科) 人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒いそうです。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが長く出て花被と同色です。名は秋の彼岸頃に花が咲くからです。



台湾ホトトギス(ユリ科) 沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



コスモス(キク科) メキシコ原産で、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に8枚の舌状花が並び、これが花色を表します。中心部には黄色の筒状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。



キバナコスモス(キク科) メキシコ原産の一年草。コスモスの1種ですが花色は橙色や黄色など、草丈は低め、花もコスモスより早い時期から咲き始めます。黄色の花を咲かせるコスモスの仲間なので、キバナコスモス(黄花コスモス)です。大正時代に渡来し、性質は丈夫で、真夏の炎天下でもめげることなく元気に育ち花を咲かせてくれます。



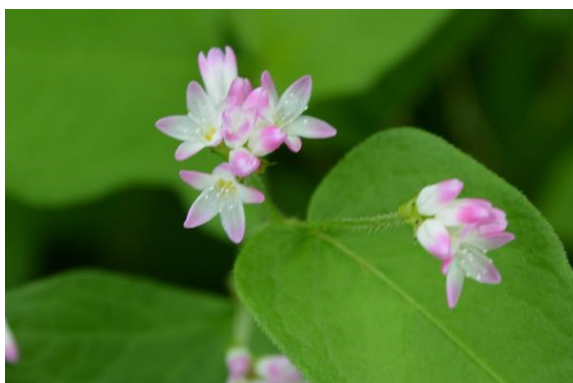
ヤクシソウ(キク科) 山野に普通に生える2年草です。葉は薄く基部で茎を抱き、切ると白い乳液をだします。枝先に多数の花をつけます。頭状花は全部黄色の舌状花からなり、花期が終わると下を向き、黒っぽい総苞と白い冠毛が目立ちます。名は葉の形が薬師如来の光背に似ることによりますが、はっきりした語源は不明だそうです。園内いろいろなところで咲いています。



ノコンギク(キク科) 山野のいたるところに普通に見られる多年草で、地下茎をのばしてふえます。茎はよく枝分かかれし、短毛が密生し、葉も両面に短毛が生えざらつきます。花は、中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(コンギク)として観賞用に栽培されています。



アキノウタギツカミ(タデ科) 北海道～九州の水辺や湿地に群生する1年草。高さは0.6～1m。茎はよく枝分かかれし、稜角があり、逆刺があつて他物にからみます。長さ5～10cmの葉は卵状披針形、基部は矢じり形で、両面無毛ですが下面中肋だけ逆刺毛があり、茎を抱くようにはりだしています。下部の葉には葉柄があり、長さ7～20mm、するどい逆刺があります。花は枝先に10数個が頭状に集まります。



オオミソソバ(タデ科) 山地あるいは原野の水辺に生える1年生草本。茎の上部は直立し、下向きの刺があります。葉は有柄で互生し葉身はほこ形で、ミソソバより大きく、毛が多いようです。枝先に白色または淡紅色の小形花をつけます。葉の付け根部分にある托葉が目立ったり、葉柄部分に翼があることでも見分けがつけられます。ミソソバの花は白っぽく縁がピンクというものが多いのに対し、オオミソソバは花全体がピンクです。



ミヤギノハギ(マメ科) 大人の背丈ほどになる落葉低木で、花は長さ1.5cm程になる紅紫色の蝶型花で、葉腋に多く付きます。枝が枝垂れているのが大きな特徴です。葉は三出複葉で、小葉は長さ3cm程の楕円形です。本種はケハギが園芸化されたものであるという説と、逆にケハギはミヤギノハギが野生化したものであるという説があります。



フジバカマ(キク科) 「秋の七草」の一つですが、中国からの帰化植物。草丈は1～1.5mになり、枝分かかれした茎頂に淡紅紫色の頭花を付けます。頭状花は5個の小花から成り、長い花柱の先が二つに分かれます。これが5つ集まるので糸状に見えるのです。渡りをする蝶「アサギマダラ」の数少ない吸蜜源です。里地の植物ですが、減少しつつある植物です。